

2月5日（土）午前、京都市南区の京都テルサ視聴覚研修室で、「男女共同参画視点からの避難所設営体験講座」（主催：京都府男女共同参画センター）の2回目が行われ、7人の受講生が参加しました。講師は京都支部所属で、防災企業連合関西そなえ隊でも活動している前川良栄さん。他に3人の防災士が参加しました。

はじめに（一財）京都府民総合交流事業団の志水伸之リーダーが訓練プログラムについて説明。続いて前川防災士が、「だれもがより健やかに過ごせる避難所へ みんなで担う運営のヒント」と題し、想定される地震被害、避難所運営の重要性を話しました。

近々起こると言われている「南海トラフ巨大地震」で京都府は、約900棟の建物が倒壊し、各所で液状化現象が起こると予想されています。他府県に比べて被害が少ない分、全国から救援物資も届かない可能性もあるため、まさに地域の力のみで非常事態を乗り切らなければならない状況となります。

「避難所運営ゲーム HUG」体験では、震源地・京都市、マグニチュード7.5、震度6強。小雨が降り気温は8℃、電気・ガス・水道は止まっていると想定しました。

今回は避難所での慌ただしさを体験するため、次々と到着する避難者を若干速いペースで発表。認知症がある、歩行困難、ペットがいる、妊娠中…など、さまざまな事情を抱えた家族をどの部屋に配置するか、瞬時に判断する訓練をしました。その間にも、「トイレがあふれた」「マスクが来た」「安否確認をして欲しい」「洗濯をしたい」「食事を分けてほしい」などのイベントが次々と起こり、同時並行で対処していきます。参加者は限られた時間の中でさまざまなアイデアを出し合いながら、できる限りの配慮を行いました。

最後にゲームを振り返り、対応に困ったこと、地域防災として普段から準備できることなどについて話し合いました。事前に準備できることとしては、避難所となる学校との調整、トイレ関連用品を中心とした備蓄、避難所での役割分担、校庭に車が何台止められるかのシミュレーション、要配慮者の把握、などの意見が出ました。

前川防災士は「京都府の小中学校では食糧の備蓄まではしていない。避難する場合はなるべく持参してほしい。ひっくり返った部屋の中から避難用具を持ち出すためには工夫が必要となる」とアドバイスしました。

【写真説明】

- 1 志水伸之リーダー
- 2 講師の前川良栄防災士

- 3 感染予防対策をして実施
- 4 刻々と変化する状況に対応
- 5 積極的に意見を述べ合う参加者
- 6 主催者の京都府民総合交流事業団・神田志保さん（右）
- 7 避難者へのアナウンスは掲示板に